

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科・福祉心理学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等	
精神障害者の生活支援システム		(精) 必修 (社.発) 選択	2	3	後期	
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー			
播摩 友里子	講師控室	kyoumu	随時メールで質問等受付			
授業の目的・概要	<p><目的> 精神障害者の概念や生活の実際や人権に関してや、居住支援・就労支援・相談援助に関する制度・施策・福祉サービスを理解し、精神保健福祉士として、各機関との連携方法や、クライアント主体の生活支援システムが構築できるようになるための知識及び技術について学習する。</p> <p><概要> 講義ではテキストの項目を用いつつ、実際に行っている講師の事例をもとに説明していく。</p>					
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> デイスクッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ()					
学習上の助言	クライアントを主体とした生活支援システムが構築できるよう、精神障害者の生活支援の方法、居住・就労・生活の制度、施策、サービスの種類等を復習しておくことが望ましい。					
教科書	新・精神保健福祉士養成講座 7 精神障害者の生活支援システム 第 3 版/編：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟/中央法規出版					
参考書	特になし					
外部教材	特になし					
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針		
①	精神障害者の概念や地域生活の実際、人権等について説明できる。			HSU(1)、WP(1)~(3)		
②	居住・就労・生活の各支援活動に伴う制度・施策について説明できる。			HSU(2)、(3)、WP(3)、(4)		
③	制度・施策、社会資源等を用いた、生活支援システムの構築に関して理解する。			HSU(4)~(6)、WP(5)、(6)		
授 業 計 画						
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)			
1	授業オリエンテーション、授業概要を理解する。	講義	教科書を読む	4		
2	障害の概念を理解する。	講義	教科書を読む 配布資料の復習・課題の提出	4		
3	各法律における精神障害者及び特性を学習する。	講義		4		
4	精神障害者の現状と家族の現状を学習する。	講義		4		
5	精神障害者と地域社会、地域生活支援モデルの動向を学習する。	講義		4		
6	精神障害者の生活と人権を学習する。	講義		4		
7	自立と社会参加のための地域生活支援システムを学習する。	講義		4		
8	相談援助・雇用就業以外の就労・余暇活動・ソーシャルサポートネットワーク支援の実際を学習する。①	講義		4		
9	相談援助・雇用就業以外の就労・余暇活動・ソーシャルサポートネットワーク支援の実際を学習する。②	講義		4		
10	居住支援制度と精神保健福祉士の役割を学習する。	講義		4		
11	精神障害者の雇用・就業支援を学習する。	講義		4		
12	市町村における相談援助活動を学習する。 その他の行政機関における相談援助活動を学習する。	講義		4		
13	包括ケアシステム・基幹相談センター・地域協議会を学習する。	講義		4		
14	生活支援システムの構築ができるようになる。	講義		4		
15	授業の復習、まとめを行い、定期試験に備える。	講義		各回の参考資料を復習する	4	
試	定期試験 達成度評価・評価のポイント参照					

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科・福祉心理学科】

達成度評価								
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
		80	0	0	0	20	100	
総合 力 指 標	知識・技術力	60	0	0	0	10	70	
	思考・推論・創造する力	0	0	0	0	0	0	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0	
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0	
	取組みの姿勢・意欲	20	0	0	0	10	30	
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0	
評価のポイント						フィードバックの方法		
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点						
試験	①	✓	定期試験（筆記試験：記述式＋選択式）により評価する。 評価割合は試験 80%（知識 60%、取組みの姿勢 20%）とする。				試験を添削して開示する。	
	②	✓						
	③	✓						
	④							
	⑤							
	⑥							
レポート	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
成果発表	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
その他	①	✓	各講義でリアクションペーパー（コメント、過去問）を利用した理解度チェックを行う。課題の未提出は減点する。				各講義のリアクションペーパー等を活用して、解説・講評を行う。	
	②	✓						
	③	✓						
	④							
	⑤							
	⑥							
備 考								
他 担 当 教 員								
教員の実務経験	支援員として 19 年、内精神保健福祉士として 12 年の実務経験。（相談支援専門員：8 年）							
実践的授業の内容	従来の授業では、教科書に記載されている一般事項を教え、その 1 例として事例を示していた。本講義では、教員が直接支援した事例を示し、実際に活用した制度や福祉サービス等、生活支援システムの構築プロセスを、教科書に記載されている内容と照らし合わせながら学習する。また、授業で示す事例は、個人を特定できる個人情報は提示しない。							
そ の 他	精神保健福祉士国家試験受験資格取得の希望者は必ず履修すること。 課題のダウンロード、資料の印刷等があるため、Teams の利用に際して通信容量制限がある場合は通信量に十分注意すること、また印刷ができる環境を整えることを推奨する。 新型コロナウイルス感染症の状況などの社会情勢によってシラバスを変更することがある。 精神保健福祉士国家試験受験資格取得のための重要な科目であるが、精神障害者に関する、特性・歴史・制度・サービス・施策は、難しい・苦手という学生も多いと思う。予習復習を心がけ、理解できないところは積極的に質問等により確認してほしい。							